写真で振り返る「教区御遠忌大会」

２０１２（平成24）年から二年半にわたって語り合いを続けてきた教区御遠忌。その語り合いから見えてきた課題の報告と共有を願い、本年6月18日、「教区御遠忌大会」が札幌別院にて開催されました。今あらためて、当日の様子を写真で振り返るとともに、大会の終わりに朗読された「教区御遠忌宣言」（全文）を掲載いたします。語り合いを続けてきた実行委員会として表白した宣言文のこころが、教区内すべての方々にとっての新たな歩みの出発点となることを切に願っております。

なお、大会当日の問題提起や記念講演等は、冊子『真宗同朋会運動～未来への継承～Ⅱ』として、来春刊行の予定です。

北海道教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌 宣言

今や真宗寺院は、現代社会の多様な価値観の中に埋没し、その存在の意義を失い、無用の長物となりつつあります。このことはひとえに真摯に仏法の前に身を据えることに、あまりにも怠慢であった我々の生き様そのものに起因するものでありました。その危機的状況は、決して時代や人心の変化に責任転嫁されるべきものではなく、どこまでも現に寺は身を置く我々一人一人に引き受けるべき課題でありました。

今こそ我々は、真宗寺院に対する厳しい批判に謙虚に耳を傾け、真摯なる危機的状況に、正直に向き合うところから再出発しなければなりません。

いかなる危機感も、単に真宗寺院の社会的地位の低下に伴う経済的不安からのみ論じられるものでは決して

第１会場：大谷ホール

記念講演でお話される亀谷亨先生

聖人七百五十回御遠忌

～未来への継承～

「地域と共に生きる真宗寺院」：問題提起　巖城　孝一 氏

「教法と儀式」：問題提起　畠平　諭 氏